

(VANITAS) 2011年 シルバーポイント・黒鉛・墨、パネルに綿布、カオリン地 162.0×227.3cm

浦

明

範



vanitas vanitatum

2023年
7月15日(土)―8月13日(日)

会場 | 武蔵野美術大学 美術館展示室3

水曜日休館

時間 | 11:00-19:00(土・日曜日、祝日は10:00-17:00) 入館料 | 無料

主催 | 武蔵野美術大学 美術館・図書館

協力 | 武蔵野美術大学 造形学部通信教育課程研究室

武蔵野美術大学 美術館・図書館

〒187-8505 東京都小平市小川町1-736

Tel:042-342-6003 <https://mauml.musabi.ac.jp>

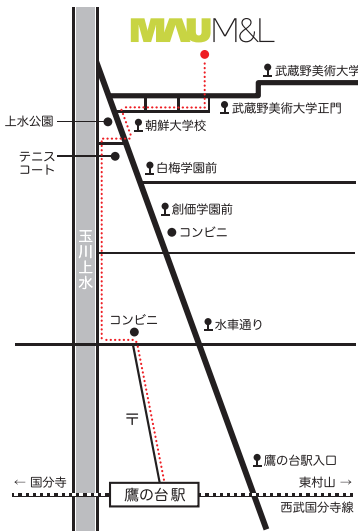
Twitter: @mau_m_1

MAUM&L
Musashino Art University Museum & Library

三浦明範の画業50年を、油彩とテンペラによる彩色作品からシルバーポイントによるモノクローム作品まで、画家自身の言葉とともに辿ります。三浦はこれまで15世紀フランドル絵画の技法に遡り、新旧画材の試行錯誤を楽しみながら表現の可能性を広げてきました。画面の様式が変遷する一方で、身近な事物を克明に観察、描くことで問題を提起し、その答えを探しながら描き続ける姿勢は一貫しています。

展覧会名にあるラテン語“vanitas vanitatum”は「空の空」を意味します。現実の不条理に直面しながら、虚無感に屈することなく、既存の秩序さえも問い直した末に辿りついた言葉として、旧約聖書中の「伝道の書」に残されました。真理に立ち向かうその言葉に重なる作品群を前に、生きること、死ぬこと、日頃あえて考えることが少ないような事柄と向き合う、絶好のチャンスとなるかもしれません。

三浦明範 vanitas vanitatum



1. 《朝の供物》1987年 油彩・テンペラ、パネルに綿布、白亜地 80.3×116.7cm
2. 《Man Sleeping》2020年 シルバーポイント・黒鉛・墨、パネルに麻布、カオリン地 80.3×116.7cm
3. 《REBIRTH》2022年 シルバーポイント・黒鉛・墨、パネルに綿布、カオリン地 227.3×162.0cm
4. 《Sleeper》2018年 シルバーポイント・黒鉛・墨、パネルに綿布、カオリン地 162.0×227.3cm
5. 《みえないもの》2010年 油彩・テンペラ、パネルに綿布、カオリン地 194.0×162.0cm
6. 《8・5の記憶》2008年 油彩・テンペラ、パネルに綿布、カオリン地 194.0×162.0cm
7. 《選い朝》1985年 油彩・テンペラ、パネルに麻布、白亜地 162.0×193.0cm
8. 《鳥》2000年 シルバーポイント・黒鉛・墨、パネルに綿布、カオリン地 162.0×227.3cm

※所蔵・写真提供はすべて作家

武蔵野美術大学 美術館・図書館
〒187-8505 東京都小平市小川町1-736
Tel: 042-342-6003
https://mau.musabi.ac.jp
Twitter: @mau_m_j

三浦明範(みうら あきのり)

1953年秋田県大館市に生まれる。76年東京学芸大学卒業。80年春陽展新人賞受賞。83-84年文化庁派遣芸術家国内研修員。96-97年文化庁派遣芸術家在外研修として、15世紀フランドル絵画の研究のためベルギーに滞在。その後、日本とベルギーを中心に、アメリカ、オランダ、チェコ、中国など各地で作品を発表。古典絵画の技法に遡ることで、油彩とテンペラの混合技法や金属尖筆を用いた表現の可能性を広げてきた。武蔵野美術大学造形学部通信教育課程油絵学科教授。春陽会会員。日本美術家連盟会員。

【アクセス】

- 西武国分寺線「鷹の台」駅下車、徒歩18分
- JR中央線「国分寺」駅北口4番停留所より西武バス「武蔵野美術大学」行または「小平営業所」行に乗り、「武蔵野美術大学正門」停留所下車(バス所要時間:約25分)
- JR中央線「立川」駅北口5番停留所より立川バス「武蔵野美術大学」行に乗り、「武蔵野美術大学」停留所下車(バス所要時間:約25分)

※お車でのご来館はご遠慮ください。

